

32 延焼拡大・避難状況

【関連章第9章】

事例 「職員の適切な避難誘導により保育園児等 200 人以上が避難した火災」

出火時分 6月 13時ごろ

用途等 保育所 耐火造 3/0 延 2,400 m²

防火管理 該当選任あり 消防計画あり

被害状況 建物部分焼 1 棟 天井裏 1 m²、内壁若干等焼損

概要

この火災は、保育所の1階の分電盤から出火したものです。出火原因は、分電盤の電気配線の結合部分のボルトが緩んでいたため、結合部で発熱し出火したものです。

保育所の職員は、1階の通路部分に白煙が漂っていたため、周囲を確認すると、分電盤から黒煙が出ているのを発見しています。発見者の職員は火災だと思い、職員室に知らせ、職員室で知らせを受けた別の職員は 119 番通報しています。保育所の職員は出火した分電盤の付近にある粉末消火器を初期消火で使用しています。また、知らせを受けた職員は口頭で火災が発生していることを周知し、他の職員の避難誘導により、職員及び園児 200 人以上が屋外に避難しています。

教訓等

この保育所には防火管理者が選任されており、消防計画も作成されていました。自衛消防訓練も定期的を実施されており、出火時も訓練通り避難誘導が迅速に行われています。

0歳～6歳の子供が通う保育所では、発見が遅れたり、延焼拡大した場合、被害が甚大となる可能性があります。建物を安全に利用するためにも、建物関係者は防火管理体制に万全を期し、定期的に訓練を実施することで、万が一の際には、被害を最小限に止めるべく、効果的な初期消火、避難誘導が行えるよう知識や技術を身につけましょう。

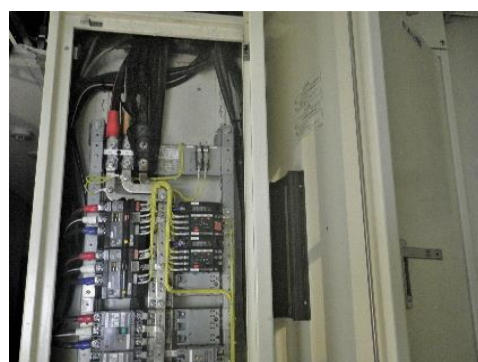


写真 32-1 分電盤の状況



写真 32-2 結合部の状況